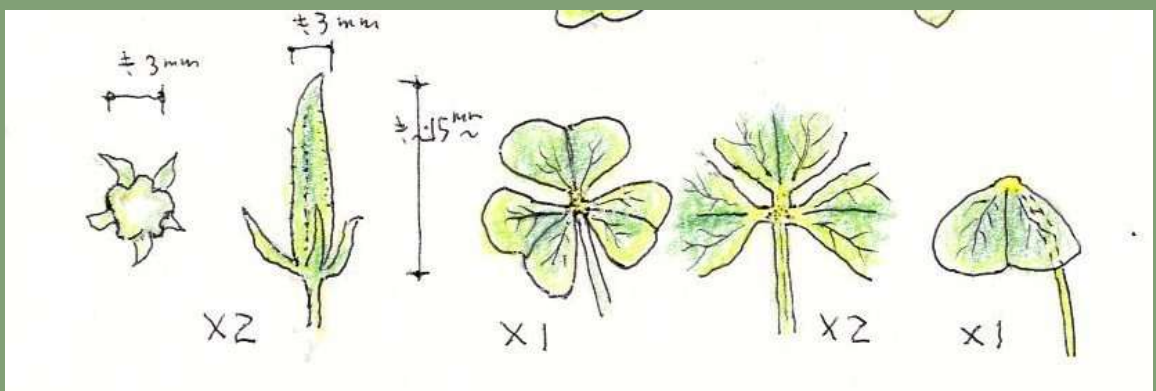
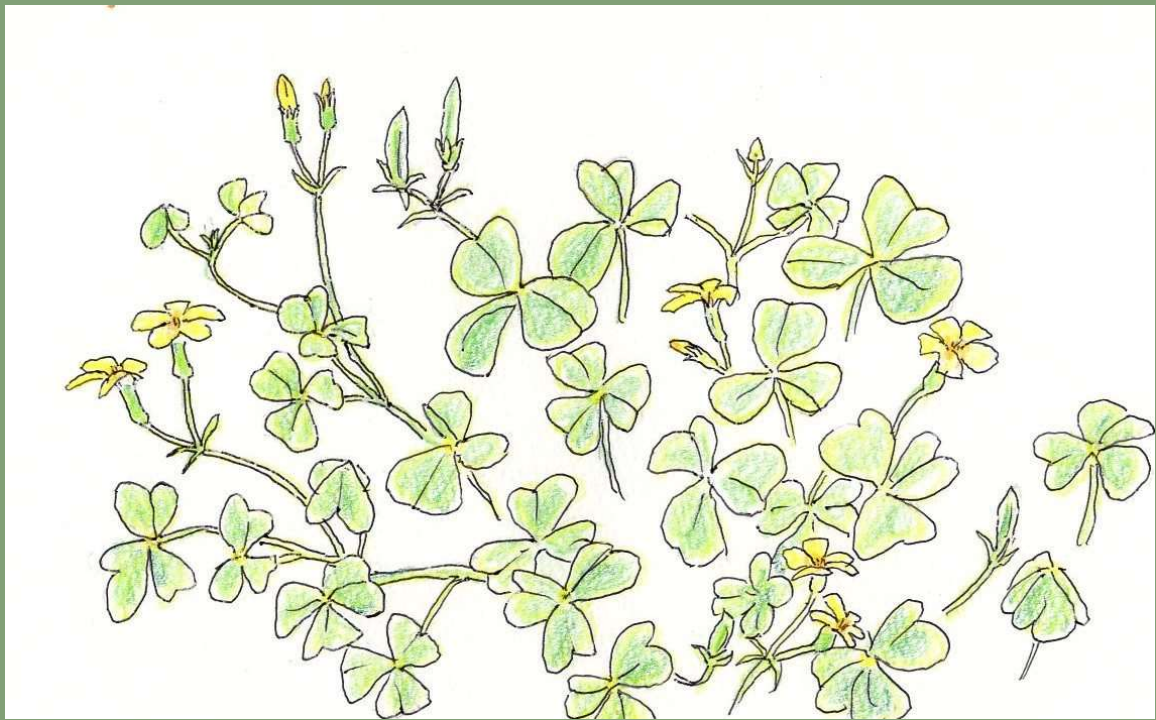


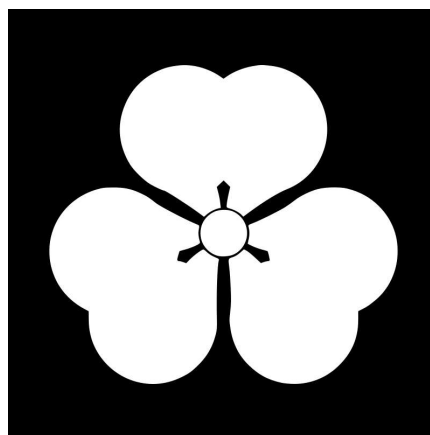
見沼たんぼ・野草スケッチ「カタバミ」 別名、酢漿草、片喰、傍食

分類：カタバミ目 カタバミ科

花言葉：「喜び」「輝く心」「母のやさしさ」



カタバミは、地方名には「かがみぐさ」、「すいぼ」、「しょっぱぐさ」、「すずめぐさ」、「ねこあし」、「もんかたばみ」など、いろいろ名で呼ばれている。この草は、冬に道ばたの日差しがあたる  
ところには、この草が、小さな黄色い花を咲かせているのを見かける。小さな草だが、様々の姿の  
変化を見せてくれる楽しい草です。葉が開いたり閉じたり、黄色い花が咲いたかと思ったら夕方



「カタバミ」	
世界：	北海道から沖縄 世界中の温帯から熱帯地域に広く分布
生育地：	道ばた、畑
茎 丈：	地下に球根を持ち、さらにその下に大根のような根を下ろす。地表に広がる。このため、繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る
葉：	葉は球根の先端から束に出る。葉は、ハート型の3枚が尖った先端を寄せ合わせた形。
花期：	5月から10月にかけて
花・花色：	黄色の花 5弁
種子：果実	円柱状で先が尖り、真っ直ぐに上を向いてつく。成熟時には動物などが触れると、自ら赤い種子を勢いよく弾き出す。最大1m程度まで
特徴：	雄しべは長いものと短いものが5本ずつある。 雌しべの花柱は5本である。
由来	「酢漿草」の文字は、葉や茎にシュウ酸を含み酢っぱいことからきている。漢字では「片喰」とも書く。
写真、記事は、みんなの花図鑑、ウィキペディアより	
2019.2.11	